

## 令和6年度 学校経営にあたって

### I はじめに

『「子供に幸せになってほしい」と願わない保護者や教師はいない。』という信念のもと、本校は教職員の日々の創意と努力、保護者や地域の支えにより、地域の中にある学校として伝統を築き、充実・発展し、望ましい校風を築いてきた。また、近年生徒数は維持され、施設面でも恵まれ落ち着いた学習環境の中で優れた実績を残してきた。授業をはじめ1年間の教育活動を見ると、生徒は個々の課題はあるものの全体的に真面目で、落ち着いて学校生活を送っている様子が伺える。これは教職員がそれぞれの教科や学級経営、担当職務等に真摯に取り組み、生徒の指導等適切に行っている成果である。今年度も、新学期を迎えて教育活動にあたり、区の方針の下、生徒の発達を支えるような生徒指導を講じて教職員が力を合わせて対応にあたるのが不可欠になる。本校の強みをさらに生かし、校内体制を整えながら指導の充実・改善を図り、引き続き学力向上をはじめ自己指導能力を身につけることを重点として、実際の社会で活用できる資質・能力を育み、一層質の高い教育を提供していく。私たち教職員が一丸となって、「人との関わり」「体験的な活動」を通して、生徒が、保護者が、教職員が、多くのことを互いに学び合い、生かしあい、学校と家庭・地域が共に育つ学校をつくり、学校を安心して楽しく通える魅力ある環境とし、保護者・地域の期待と信頼に応える学校教育を推進していく。

### II 学校の状況や課題等

- (1) 生徒の実態 生徒は落ち着いていて、真面目で向学心が高く、努力を積み重ねている。生徒はのびのびと生きていて、様々な教育活動に主体的に取り組み、特に生徒の自治活動が盛んで、生徒全員で取り組むピクアートは本校の特色になっている。家庭の教育力は高く、教育に対して関心がある。
- (2) 学校経営的な課題等生徒が様々な課題を主体的に解決し、たくましく生き抜く力とよりよい社会を形成する力が身に付けられるよう、基本的な学力を身に付けさせ、思考力・表現力・判断力をより一層育て、自己肯定感を高め、社会において自立と共生に向けて行動できる人として育てていくことが課題である。

今年度も、これからの時代に必要な資質・能力を育成するために、各教科・領域等の学びの過程の改善にあたっては「見方・考え方」や「主体的・対話的で深い学び」などを意識して授業改善に努めるとともに、「カリキュラム・マネジメント」の確立や「社会に開かれた教育課程」の実現など学習指導要領の趣旨を十分に理解していくことが欠かせない。

関係三小と同じ研究グループで小中連携を推進し、学びの過程を重視する授業改善を図るとともに、個々の生徒に応じたきめ細かい教育を充実させ、いじめ・不登校の解消に向けて落ち着いた生活環境を維持することが重要な課題である。行事や部活動など活気あふれる学校を維持し、生徒一人ひとりの個性や能力を生かし、発揮させる場面をつくり、生徒の心に充実感・達成感を味わわせ、自己肯定感を高めることにつなげていく。また、特別支援学級の設置校として、交流活動及び共同学習等を計画的・意図的に取組を推進するとともに、特別支援教室が機能するよう、全教職員で発達障害への理解を深め、適切な指導・支援にあたり、組織的に特別支援教育を推進する。

練馬区の重点施策として ICT 機器の整備が進められている。これからの時代を生きる生徒にとって ICT 機器は必須の道具の一つであり、ICT 機器の活用は生徒の視覚に訴える有効な手立てである。教員が分かりやすい授業をするために ICT 機器の活用は徐々に進んできたが、さらに意図的・計画的に活用するために、各教科等の年

間指導計画に意識して位置付け、より積極的に授業に取り入れて実践していく。

以上のことを目指し、新学習指導要領の理解と実践を図りながら授業改善を図っていく。日々の学校経営や教育活動において誠実かつ意欲的に業務にあたり、増加傾向にある不登校の問題等への支援の徹底、小中一貫教育の充実を図り、生徒・保護者・地域から信頼される学校を築いていく。

また、服務事故防止に向けて教職員一人ひとりが自覚して法令を遵守していく。

さらに、区の方針に基づいて、業務の役割分担と慣例的に行ってきた業務を見直し、適正化を図り、子供と向き合う時間を増やし働き方改革を推進する。教育課程外で行われている中学校の部活動については学校教育の一環として、生徒自身が活動を通して自己肯定感を高めることや人格形成や健全育成に資することなど、教育的意義が認められているものであり、区の方針に基づいて共通の認識の下、毎月の活動計画及び活動内容を明確にするなど指導体制を整備し、推進していく。

### Ⅲ 学校経営の基本理念 「環境は人を育てる」 (人的・物的・言語環境を整える) 「熱い指導、冷静な対応」(丁寧な関わりと観察)

#### (1) 全教職員による「信頼と協力を基盤にした魅力ある学校づくりの推進」

##### ◆教育目標

1. 深く考え、自ら実行する
2. 思いやりの心で協力する
3. 美しい心、たくましい体をつくる

学校の教育活動の質を高め、生徒の成長や変容という成果が表れるようになるためには、教職員一人ひとりが、光が丘第三中学校を「わが学校」と捉える意識をもち、愛着をもつことが重要な要素であると考え。全教職員が教育活動を創っていく当事者としての気持ちを大切に、自校の取組に誇りをもつ姿勢は欠かせない。その際教職員一人ひとりの熱意や努力、持ち味などを生かした工夫や取組等を大切に、教職員が互いに学び合い、高め合いながら、誇りのもてる「わが学校」の教育活動を創り上げていくことを目指す。しかし、一人ひとりが抱え込んだり、それぞれ別の方向を向いて努力していたのでは、その努力は生きてこない。また、いくら良い試みでも、単発的な取組では継続した活動として生徒の中に積み上げていくことは難しい。各主任が中心となって学校の教育活動を意図的・計画的かつ組織的・効率的な取組にしていくことが大切である。

個人的な印象や憶測で判断するのではなく、生徒の実態や保護者・地域のニーズ等を分析したり、練馬区教育委員会の目指す方向性との関連を意識したりするなど、根拠をもって決めるようにする。また、適宜、進捗状況の把握や評価を行い、PDCA サイクルを意識して進め、教育活動の状況や成果については、生徒・保護者への積極的な情報発信(情報伝達サービス シグフィーの活用)、地域等へは学校便りや学校ホームページ等で情報提供していく。

##### ◆めざす学校像

練馬区教育委員会の教育目標、学習指導要領の改訂に基づき、教育目標の実現に向けて、教職員の力を結集し、そしてこれまで営々として築かれてきた学校の特色や伝統を生かしながら、生徒が光三中に通って良かったと実感できる学校にする。

そのために、「人との関わり」を通して、生徒が、保護者が、教職員が、多くのことを互いに学び合い、生かしかい、学校と家庭・地域が共に育つ学校をつくり、質の高い教育を提供し、安全・安心で信頼される学校にする。

## 1. 生徒が一人ひとり生き生きと輝く学校

元気な挨拶が飛び交い、学ぶ喜びを実感できる授業、魅力あふれる学校行事や部活動等によって、生徒一人ひとりが自分の良さを発揮し、存在感が実感できる学校

【知の輝き】 学力の定着・伸長を図り学ぶ喜びのある学校

【心の輝き】 生命を尊び、美しい心、思いやりの心があふれる学校

【身体の輝き】 健康の保持増進と体力の向上を図る学校

## 2. 保護者が学校を信頼し、生徒を安心して通わすことができる学校

人権尊重の精神の基に生徒理解に努め、小中連携生徒や保護者・地域と教職員、生徒相互の信頼関係を構築するとともに、生命を尊び、思いやりの心があふれる安全・安心な学校

## 3. 教職員が互いに立場を尊重し、磨き合い活気あふれる学校

「全ての基本は授業」を前提に、学習過程を質的に高め、社会で活用できる資質・能力を育成する。光三中の良さ・伝統を維持していくために、互いの立場を考え、支え組織を生かして協働して集団で教育にあたる学校

## 4. 地域に愛され、根をはった学校

人との関わりを大切にし、生徒・保護者・地域の声に真摯に耳を傾げるだけでなく、社会に開かれた教育課程の実現を図り、学校と社会が連携して、子供の学びを確かにし、より「質の高い教育」を目指す。説明責任と結果責任を心がけ、学校を開き、家庭や地域と共に育つ学校

### ◆めざす教職員像

1. はじめに生徒ありきの視点で、組織的に使命感と学校経営への参画意識をもちサービスの厳正に努める教師  
→教育公務員として、生徒の人格形成に大きな影響を与える職務に携る者として、その使命と職責を深く自覚し、服務規律の厳正に務める。
2. 生徒との関わりを重視し常に生徒理解に努め信頼関係を築き、生徒の個性とよさを伸ばし、生徒に達成感や自己肯定感をもたせ、最後までねばり強く生徒の指導、支援に努める教師  
→生徒理解が指導の基本である。生徒一人ひとりの実態を的確に把握し、個々の教師及び組織を通して効果的に生徒指導、学習指導に生かしていくことが大切である。日々の生徒との信頼関係を築き、善悪の判断をもたせ、けじめをつけさせ、苦しくとも粘り強く指導し、生徒の個性の伸長や主体的態度の育成を目指す。
3. 危機意識、当事者意識をもって研修に励み、専門性を磨くとともに、豊かな人間性を身に付けるように努める教師  
→問題を整理し、解決することに傾注し、当事者意識で問題の解決にあたる。事後対応の迅速さ、的確さが大切で、初期対応で決まる。情報は速やかに正確に報告し、情報を共有し、解決策を練る。

## (2) 生徒の指導に関する基本理念

子どもたちはよい環境に置くと、子どもの良い部分が伸びる。それは、子どもたちがお互いに協力し、切磋琢磨して成長していき、子ども一人ひとりが伸び伸びと安心して自分の良さを発揮できるからである。よい環境をつくる上で次の4つの要素が考えられる。

1. 教職員の指導力、語彙力とその人間的な魅力
2. 共感的な人間関係の育成
3. 子どもたちの学習意欲や生活習慣など、子ども自身の力
4. 家庭、地域の支援や協力体制など、学校を支える地域の教育力
5. 教室、廊下等の美化・整備や掲示物の工夫など、安心・安全な風土の醸成

### ◆めざす生徒像

#### 1. 深く考え、自ら実行する生徒【知の輝き】

- ・基礎・基本の学習内容を確実に身に付ける生徒（生きて働く『知識・技能』）
- ・主体的に学びを活用でき、振り返りながら学習に取り組む生徒  
（学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性』）
- ・学ぶための力を身に付け、他者と協働して問題解決を図る生徒  
（未知の状況に対応できる『学び方、思考力・判断力・表現力』）

#### 2. 思いやりの心で協力し、考えて行動できる生徒【心の輝き】

- ・自己理解に努め、自らの生き方に自己肯定感をもって決定できる生徒（自立）
- ・規範意識や社会性を身に付け、社会の一員として正しく行動できる生徒（共生）
- ・集団の一員としての役割や責任を果たす生徒（自立・共生）
- ・他人のよさや違いを認め、相手の立場や気持ちを考えられる生徒（共生）

#### 3. 美しい心、たくましい体をつくる生徒【身体の輝き】

- ・将来の夢や希望をもち目標をもって、たくましく生きていける生徒
- ・嫌なことから逃げず、何事にも見通しをもってねばり強くやりぬく生徒
- ・心身を鍛え、自らの心身を健康・安全に保とうとする生徒

#### IV 令和6年度の重点 “3つの輝き”

##### 知の輝き

- ☆ICT 機器（電子黒板やタブレット等）の積極的な活用
- ☆学力の向上をはじめ資質・能力を育成する
  - ・学力の把握（学力調査結果を基に）と学力の伸びを検証し、かつ授業アンケートを実施することで、「学力向上を図るための全体計画」を作成し、授業改善につなげる。
  - ・数学・英語の習熟度別少人数授業の実施
  - ・ガイダンスシラバスの充実（信頼性のある評価の説明と家庭学習のあり方）
  - ・家庭学習時間の確保（1年1時間、2年2時間、3年3時間）
  - ・放課後の補充教室と夏季学力補充教室の工夫と実施
- ☆図書室の充実（支援員の配置・蔵書数の増加とシステムの導入）
- ☆小中一貫教育を推進する

##### 心の輝き

- ☆F組との交流活動推進
- ☆防災教育の充実
- ☆「特別の教科 道徳」の指導と評価の一体化を図る。
- ☆いじめを生まない望ましい人間関係を構築する
- ☆「SNS 光三中ルール」を基に様々なトラブルを防止する
- ☆生徒会活動の活性化
- ☆心を育てる朝読書の実施
- ☆美しい環境（花や緑・作品の展示・憩いのコーナー）
- ☆職場体験とキャリア教育を充実（外部人材を活用）する
  - ・マナー講習会（職場体験に向けて）、面接講座、上級学校の先生の話の実施など
- ☆小中一貫教育を推進する（小学校・地域と連携—いじめや不登校の解消・様々な交流活動の充実）

##### 身体の輝き

- ☆体力の向上・健康の保持増進、豊かなスポーツライフにむけた意識の醸成
- ☆「学校 2020 レガシー」の構築に向けた取組の推進をはじめ、生き方講演会の実施
- ☆食育の推進
- ☆部活動の実施
- ☆大会発表会・連合陸上大会等区連合行事への積極的な参加

#### V 中期的目標

### (1) 豊かな心の育成（心の輝き）

- 生徒の心に寄り添い、生徒と教師の信頼関係を築く。また、生徒相互に支え合う高め合う集団づくりをし、いじめが起こりにくい土壌をつくる。
- 「特別の教科 道徳」を充実させるために、学校や生徒の実態に即して、道徳資料を活用し、指導法を工夫し「考え、議論する道徳」の授業づくりを進める。
- 生き方講演会の実施や職場体験、キャリアパスポートの活用などキャリア教育の充実を図る。

### (2) 授業改善を図り、確かな学力と体力の向上を図り、主体的・対話的で深く学ぶ態度を育成する（知の輝き・身体の輝き）

- 国都区の学力調査の結果の分析や、授業評価アンケートに基づいて指導方法の工夫改善を図る。
- 授業のねらいを明確に示し、課題解決的な学習を取り入れて生徒が主体的に学習に取り組むように授業を展開する。
- 数学と英語の習熟度別少人数授業をはじめ、きめ細かな指導を行い、一人一人の学力の定着と伸長を図る。
- ガイダンスシラバスを活用し、信頼性・妥当性のある評価の説明をし、家庭学習のあり方を示す。

### (3) 家庭・地域社会との相互の連携・協働

- 学校・地域連携事業を実施し、積極的に地域の人材活用を図り、学習補充・キャリア教育の充実など様々な教育活動を一層充実させる。情報伝達サービス シグフィーの活用や学校ホームページをより一層充実させ、学校の情報を発信する。